

事例2： 社会医療法人恵和会 帯広中央病院（北海道）の取り組み

「コロナ感染専門病棟での理学療法士の夜勤業務支援により、看護助手の不足が解消された」

概要

- (状況) コロナ感染専門病棟（22床）にコロナ新規感染患者10人が入院し、夜勤勤務の職員1人分が不足した。
(支援) 2日間、延べ20人（10人／日）の理学療法士が交代でコロナ感染専門病棟にて夜勤時間帯の業務支援を実施。
(結果) 2日間の看護助手分の夜勤業務が対応可能であった。

コロナ対応病棟での支援

- ・コロナ感染患者に対してのリハビリテーション提供：なし
- ・夜勤業務：あり ・入院対象患者は軽症者
- ・環境調整：病室内の温度調整などの環境整備 ・活動援助：認知症患者の移送・移乗介助
- ・入眠・睡眠援助：認知症患者への入眠などの対応

その他の病棟での支援

<療養病棟>

- ・夜勤業務：なし
- ・活動・休息援助（移動の介助・移送：特別介助浴の搬送補助）

<一般病棟>

- ・夜勤業務：なし
- ・食事援助（食事介助）
- ・清潔・衣生活援助（おむつ交換）

病院プロフィール

- 病院の機能説明：
呼吸器内科を中心とした一般病院
- コロナ患者対応：
あり 20病室22床
- 全病床数：155床
（コロナ感染専門22床
一般40床、地域包括35床、
療養型55床）
- 感染対策の教育：
感染管理看護師からの教育